

講演を聴いて、心に残ったこと、考えたことを記述しましょう。

アンネについては伝記も日記も読んだことがあるのでおおよそ知っていましたが、戦争や差別に関する資料、書籍についても知れて良かったです。

自分は600万人のアンネフランクみたいなのをあんまり読んだり聞いたりしたことがなかったので、今回の講演はいいなと思いました。
そして、平和っていうのはやっぱり一番だなと思い返すことができたのでとっても良かったです。

絶望しかけた時の考え方でもうダメだなんて思ったらそのままずるずる下がって行く考えしか今まで無かったから自分のことを待ってる人が人生でいるって言う考え方はめちゃくちゃ感動したし持っていこうと思った。

アンネの日記は、アンネが人の様々な激情にさらされ続けてなお性善説を曲げなかったその思想があったからこそ、人の心を動かす名著へと昇華したのだと思います。

ドイツのヒトラーによって行われていた酷いことは、社会の授業などである程度聞いたことはあっても詳しくは知らなくて、想像以上に酷い状況だったのだと悲しく思った。

どうして自分達よりも大変な状況に陥っていたアンネがここまで明るく過ごせたのか、アンネの日記については以前アニメ版のものではありますが読んだことがあったので知っていましたが、読んだ当時からずっと尊敬していました。その感情が今日の公演を通じて深まったなと感じました。

アンネフランクの日記は前に一度読んだことがあったが、また改めて講演を聞いて、「言葉」というものがどれほど重く、大切なものなのかを感じることができた。絶望のなかで希望を見出し、それを言葉にして書き記す。しかし、その言葉からたくさんのことが伝わってきて、感じるができる。そう思った。なので、言葉がいかに大切かを感じられた。

ホロコースやユダヤ人迫害など知っている単語もあったがアンネが日記を残したことドイツのユダヤ人迫害の恐ろしさなど知らないこともたくさんあった。

なぜヒトラーが迫害の対象をユダヤ人にしたのか気になった。

生まれ育ったドイツが、ヒトラーによる独裁によってユダヤ人の迫害が始まり、オランダに逃亡したのに、そのオランダもドイツにより占領され、いつ自分達の隠れ家が見つかるのか分からないのに、日記をつけ続け、その内容が絶望や希望を持たないものなどではなく、むしろ希望を持った内容なのは、とても強い人なんだなと思いました。

「環境によって言葉の意味が変わる」
→自分が言った言葉で相手のこれからの考え方に影響するということだと思うので家族や友達、自分の子供にかけ言葉に気をつけようと思いました。
「人生の方が自分を待っている。」
→これからもし苦しいことがあっても、この先には楽しい未来が待っているんだと自分を勇気づけることができる言葉だなと思いました。

無差別に人が殺されたり、強制労働させられたり、あまり私たちには想像しにくい世界だと思った。だけど今でもガザ地区やウクライナなどでは起きていると考えたら、もっと一人一人が真剣に問題に目を向けるべきだと思った。1度アンネの日記を読もうと思う。

ナチスのユダヤ人迫害やアンネ・フランクについてある程度のことは知っていたけれど、先生が用意してくださった資料でより詳しく知ることができました。「アンネの日記」は手元にあるものの読んでいなかったの、今回少しだけでもその内容を知って、アンネが自分の考えや信念みたいなものを強く持っていたことに驚きました。だんだんと自分の周りのユダヤ人が消えていって、いつ自分たち家族が連れて行かれてもおかしくないという緊迫した状況で「人間の本性はやっぱり善なのだ」と書き残すことができるなんて本当に信じられないことだと思います。

歴史に“もし”はないのかもしれないけれど、もし誰も密告などしなかったら、もう少し早くソ連軍がやってきていたら、とどうしても考えてしまいます。アンネたちが乗せられたのが最後の貨車だったというのなんとも言えない気持ちになります。

こうやってもしもの話を考えてみたときに1つ思ったのは、もしアンネが生きて収容所から帰って来たとして、果たして彼女は「人間の本性はやっぱり善なのだ」と言い切ることができるのだろうか、ということです。資料7からも分かるようにアンネはアウシュビッツで、想像を絶するような経験をしていたと思います。そしてそのようなひどい行いを推し進めていたのはナチスの人間です。その経験を経てもなお人間の本性は善なのだと言うのかなあと。私はそれでも彼女はそうだと思うと思います。勝手な考えだけれど、そう言わないのは彼女が「かくありたいと願っている、そういう人間」ではないのではないかなと思うからです。この機会に「アンネの日記」を読んで、アンネ・フランクにという人について知りたいと強く思いました。

アンネがどんな状況でも希望を捨てなかったことが印象的です。特に資料5, 8月1日の最後の日記で絶望的な状況でも理想を持ち、それにどうしたら近づけられるのかと模索し続けるというのは、現代を生きる私から見ても素晴らしい心持ちで見習っていききたいと強く感じました。

残酷なことをする人がいると分かっているけど人間の本性は善だと考えるアンネはとても偉大だと思った。

最後まで諦めないことが大切だと思った。